EDO-TOKYO MUSEUM 江戸東京博物館

EDO-TOMO
えど友

第67号
平成24年
(2012)
5－6

えど友ホームページ
http://www.edo-tomo.jp/

江戸東京博物館友の会会報

目次

楽しみな「上野の山」の化粧直し …… 1〜2
第 12 回定期総会開催、多くの皆さんのご出席を！ ……2
えど友広小路 ……3〜5
会員に聞く**「江戸川柳と小栗清吾さん」**/ 会員からの投稿
「江戸文化をネットで検索」、**「辰巳は江戸城の「東南」？「南東」？」**/ えど友サークルだより / えど友サークル紹介 **「落語と講談を楽しむ会」** / お知らせ **「『えど友』誌面が変わりました」** / 友の会めも
友の会セミナー**「後藤新平をめぐる男たち」**……6
友の会セミナー**「忘れそうな江戸東京ことば」**……7
友の会特別観覧会**「ザ・タワー〜都市と塔のものがたり〜」**…8
江戸博クリップ**「痛恨の一事」**……8
見学会**「広重『名所江戸百景』周辺探訪ーその 6ー」**….9
第 4 回「えど友研究発表会」の発表者を募集します……9
江戸名所図会を歩く①**［和田倉門から石町時の鐘］**…… 10
催事案内／会員優待のお知らせ …… 11〜12

楽しみな「上野の山」の化粧直し

新しい噴水広場もお目見え

上野恩賜公園の一帯が、江戸時代寛永寺の境内地であったことは広重の浮世絵や『江戸名所図会』等で知られています。工事用のフェンスで気付かれた方もあると思いますが、昨年の春頃から同公園の再生整備が始まっています。園内の掲示板からはどのように整備されるのかいま一つ判然としませんでした。その内容を知ることができましたので、一部をご紹介しましょう。

寛永寺の寺域

上野の山に寛永寺が建てられたのが寛永2年(1625)徳川三代将軍家光のときで、「家光は江戸城の鬼門を鎮護するため、天海僧正に命じて寛永寺を建立させました。天海僧正は、当時天台宗の最高権威だった比叡山延暦寺をモデルにしたといわれています。例えば寺名を年号からとって寛永寺、山号を比叡山延暦寺にならい東の叡山、つまり東叡山としました」。寺名を年号からとったお寺はざらには見当たらず、近辺では鎌倉の建長寺があります。

また、不忍池の景観を生かすため清水(きよみず)観音堂を清水寺を模して舞台づくりにし、さらに比叡山近江の竹生島になぞらえて不忍池の中に中島を築き、弁財天を祭ったのが不忍池弁天堂だと伝えられています。明和から安永(1764〜1780)にかけてはこのお堂のまわりに江戸名物の出会茶屋が並び、若い男女で大層にぎわったそうです。

上野公園の誕生

寛永寺の寺域だった上野の山は明治維新後に官有地、明治6年(1873)の「太政官布達」により、わが国最初の「公園」の一つになりました。上野の山が市街地にあって景色が良く、旧跡にも富み、人の多く集まる盛り場という条件を満たしていたからです。慶応3年(1867)3月以来禁止されていた一般人の上野の山への立ち入りがこの時から解除となりました。明治9年(1876)には新しい公園にふさわしい社交の場として「八百善」と「精養軒」が誕生しましたが、前者は公園散歩の客筋には不向きなため数年で廃業しました。大正13年(1924)、東京市に下賜された当初は花見を中心とした公園のようでしたが、時代の変化によりおいおい文化施設(博物館、美術館、動物園等)が建てられ、多くの人々に親しまれて今日に至っています。

再生基本計画とは

「上野恩賜公園再生基本計画」によると［芸術・文化、みどり、景観、観光等の面で重要な役割を持っている上野公園を、日本の新しい顔となる「文化の森」として創造、再生してゆく］とうたい、公園を次の六つのエリアに分けて再生整備するというのです。

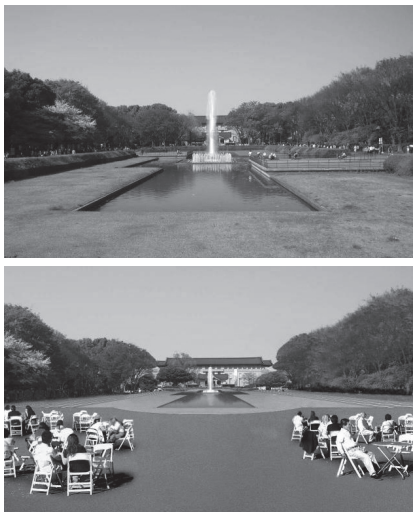
1. 不忍池エリア
親水護岸や園路広場を整備して快適な池畔をつくる。

2.桜ケ丘エリア
江戸期に初めて花見のために開放されたエリアで多種のサクラを楽しめる花見の場として復活する。
3.袴腰エリア
風格のある入口広場として整備する。
4.歴史資源エリア
江戸の名所の景観を再現する。
5.竹の台・文化施設エリア
「文化の森」の中核となる広場をつくり、噴水を一新。休憩や食事のできるカフェができる。
6.上野駅公園口周辺エリア
「文化の森」の入口にふさわしい広場の整備をする。

誌面の関係でこれらのうちの3と4について見てみます。

◎袴腰(はかまごし)エリア(注・江戸時代にあった黒門の西脇を固めた石垣が、袴の腰板に似ていたことからそう呼ばれたとのこと。上野公園山下口)

このエリアは寛永寺の時代、上野の山のメインエントランスであったことから、江戸時代に存在した黒門を想起させるモニュメントを設置する。高低差のある地形を活かし黒門のモニュメントを際立たせ、袴腰の象徴性を高める壁泉を整備する。前記のモニュメントと併せて、歴史性を演出する江戸園芸花木等の植栽を導入する。上野商店街等周辺地域の情報も提供する合同掲示板を設置する。平成26、27年整備の予定。



▲噴水越しに東京国立博物館方面を見たイメージ　上：現況　下：計画案
(東京都ホームページより)

◎歴史資源エリア

寛永寺清水堂など歴史資源エリアについては、エリアを特徴づける歴史資源の活用と眺望景観の再現を中心として導入施設の内容を整理する。

江戸図会等に描かれた寛永寺清水堂から弁天堂・不忍池方面への歴史的な景観の再現と眺望確保を図るため、現在、眺望を妨げている樹木の整理を行う。

袴腰と寛永寺根本中堂を繋ぐ参道であったとともに、現在でも多くの来園者により利用されていることから、主動線として、円滑な利用ができるよう現在の幅員を確保する。さらに、サクラの樹勢回復と後継樹の育成により、桜並木の更新を図る。また、江戸の歴史性を演出するため花木等の植栽を導入する。平成24年度整備の予定。

以上が整備内容の一端です。一日も早く行楽・文化の中心として生まれ変わることが待たれるところですが、5.竹の台・文化施設エリアについてはすでに整備が進んでいます。5月の中頃には写真のように東京国立博物館の正面の噴水公園も新しいものに変わり、カフェ等もお目見えしていることでしょう。

主な参考・引用文献

「上野恩賜公園再生基本計画」東京都
『新版江戸名所図会』角川書店
『江戸芸能落語地名辞典・下』六興出版
『新版　史跡をたずねて－したや・あさくさ－』東京都台東区
『武江年表(東洋文庫)』平凡社

【取材】文：広報部会・菅沼和男

第12回定期総会開催、多くの皆さんのご出席を！

平成13年に発足した友の会はまる11年が経過し、12年目を迎えました。

友の会は会員皆さんが自ら参加し、つくりあげていく会です。その会員が一堂に会する定期総会は年に一度の機会で、過去1年の活動を振り返るとともに、本年度の活動について率直な意見交換をする場です。同封の議案書をご検討いただき、多くの会員の皆さんがご出席くださいますようお待ち申しあげます。

開催要領は次のとおりです。

○　平成24年度　友の会定期総会

開催日時：5月26日(土)
13時15分開会

会場：江戸東京博物館・1階ホール

◇　主な議案

・平成23年度事業報告ならびに収支決算報告について
・平成24年度事業計画案ならびに事業予算案について
・役員の補充選出について

○　竹内館長の記念講演

総会に引き続き、江戸博竹内誠館長による記念講演が予定されています。演題は「紀伊国屋文左衛門の実像」です。ご期待ください。

○　会員交流会

記念講演会終了後、16時45分より、7階・桜茶寮にて会員交流会(会費500円)が開催されます。

会員同士の交流、懇親を深める良い機会です。ぜひともご参加ください。

会員に聞く

江戸川柳と小栗清吾さん

平成18年(2006)入会の会員で、今年『はじめての江戸川柳―「なるほど」と「ニヤリ」を楽しむ』(平凡社新書)を出版された小栗清吾さんにお話を伺いました。

興味を持たれたのはいつ頃から？

小さい頃から落語や小咄に興味がありましたし、大人になってから江戸川柳の本も読むようになりましたが、本格的に勉強を始めたのは、古川柳研究会に入った平成5年(1993)からです。

江戸川柳とはどういうものでしょうか

一般に明治以前のものをいいますが、特に柄井川柳[享保3年(1718)～寛政2年(1790)]が選んだ句が有名です。川柳は、連歌の練習から発生した「前句付け」が独立の文芸になったものです。「前句」を課題に出して、それに付く「付け句」を募集するという懸賞募集が行われました。その入選句を刷り物にしたのが、現在われわれが目にする江戸川柳です。他にも大勢の選者がいたにもかかわらず、柄井川柳(本名・柄井八右衛門正通)の選句が評判を呼び、やがて「前句付け」を「川柳」と呼ぶようになりました。

江戸川柳を解釈するには、①江戸言葉の理解、②江戸風俗の理解、③歴史・芝居・謡曲など幅広い教養、④約束事(たとえば姑は意地悪、息子は道楽息子)や文句取りなどの技巧の知識、の四つが必要だと考えています。難しいですが、そこが面白いところです。

俳句と川柳はどう違うのでしょうか

季語や切れ字の有無とかいろいろなことをいう人がいますが、よく分かりません。「大根引大根で道を教へけり」(小林一茶)、「ひんぬいた大根で道をおしへられ」(柳多留)の2句を比べると漠然と分かる気がしますが、定義をするのは難しいですね。

江戸東京散策はされますか

明治維新、関東大震災、太平洋戦争、高度成長、住居表示の五つで江戸が消えたというのが私の持論ですが、それでもまだあちこちに江戸らしさが残っています。江戸川柳の名所をよく歩きますが、皆さんもぜひ散策していただきたいです。

江戸川柳の勉強の仕方を教えて下さい

本で独学するのもいいですが、仲間と一緒に討論するのが一番身に付きます。友の会でサークルを作られるようでしたら、アドバイスをいたします。

〔後記〕江戸川柳は庶民の日常生活が生き生きと描かれ、宝の詰まった玉手箱です。小栗さんからも江戸川柳への傾倒と情熱がその柔和な笑顔からほとばしり出て、単独でお聞きするのがもったいない気がしました。

【聞き手】文：広報部会・内匠屋京子

会員からの投稿

江戸文化をネットで検索

前田太門

江戸の情報は、インターネットでも多数入手することができます。「いいね！」と思ったホームページのいくつかをご紹介します。

東京国立博物館では、トップページから「コレクション」→「名品ギャラリー」を選択して、検索の「作品・文化財の名称」欄に「近世職人尽絵巻」と入力すれば、鍬形蕙斎の「近世職人尽絵巻」の画像(絵巻を43枚に分割)を見ることができます。

国立歴史民俗博物館では、「江戸図屏風」の画像(屏風を48枚に分割)を見ることができます。

平成23年(2011)12月15日からサントリー美術館で「殿様も犬も旅した　広重　東海道五拾三次　－保永堂版・隷書版を中心に－」展が開催されました。イギリスにある広重のホームページ(英文)ですが、この保永堂版・隷書版の画像があります。グーグルなどの検索ページから「THE WOODBLOCK PRINTS OF ANDO HIROSHIGE」で検索すると、すぐホームページが見つかります。このページをクリックし、次に、ページの上部にある「The Fifty-Three Stations of the Tokaido Road」をクリックすると、「Hoeido Edition」(保永堂版)、「Reisho Edition」(隷書版)などの文字が出てきます。「Hoeido Edition」をクリックし、そのページの下部にあるPrintsとある横の数字をクリックすると、東海道五十三次の画像が出てきます。また、「Reisho Edition」をクリックすると、隷書版の画像がすぐ出てきます。「名所江戸百景」の画像も「Views of Edo」→「One Hundred Famous Views of Edo」をクリックすると、出てきます。

江戸東京博物館のホームページでは、トップページから「フロア紹介」→「図書室」を選択し、そのページの中にある「レファレンス事例集」をクリックします。すると、たとえば江戸時代の男女の平均身長？の問いに「おおむね“男性155～158cm”“女性143～146cm”」と回答が載っています。その他、興味深い情報が多数掲載されています。

国立国会図書館のホームページでは、「電子展示室」をクリックすると、江戸・東京関連の情報がでてきます。

ウィキペディアは、多くのボランティアによって作られている事典です。ここにも、たくさんの江戸情報が載っています。正確さは劣るかも

しれませんが、よく利用しています。

「辰巳」は江戸城の「東南」？「南東」？

菅沼和男

深川は江戸城の「辰巳」にあたるところから、深川の芸者を辰巳芸者などといったそうです。この「辰巳」を我が家の辞書・辞典類で調べてみると“東南”と記述されているのが『明解国語辞典』『新明解国語辞典』『江戸東京学事典』(いずれも三省堂)、片や“南東”とあるのは『広辞苑』(岩波書店)『角川最新漢和辞典』(角川書店)でした。この違いはどういうことでしょうか。

「東か西を先に持ってくる言い方(東南、東北、西南、西北)」には東南アジア、東北地方、西南戦争、都の西北、最近では東南海・南海地震などがあります。この言い方はよく考えてみると地域を指していることが分かります。平安時代からある「古い言い方」のようです。

「南か北を先に持ってくる言い方(南東、南西、北東、北西)」は案外少なくBSアンテナの向きは南西に、風向き(北西の風)などしか私には思い浮かびません。この言い方は地域ではなく方角を指す場合に使われ、明治以降の「新しい言い方」のようです。

最近盛んに北朝鮮の弾道ミサイル発射問題が報道されています。新聞紙上では「パトリオット3の配備予定先に南西諸島の配備も念頭においている」などとの記述が見られますので、前述の区分けも絶対的なものではないようです。

永井荷風は『断腸亭日乗』の昭和7年(1932)9月16日の項で「……放送局員の天気予報をなすに、北東の風或は南東の風或は愚図ツイタ天気などいふ語を用ゆ。これ頗(すこぶ)る怪奇なり。吾等従来北東南東などの語を知らず、東北東南と言馴れたるなり。……」とその言い方に異を唱えています。このことから風向きなどもかなり以前には「東や西を先に持ってくる言い方」だったような気がします。

参考図書　『日本語へそまがり講義』(林望著)ほか

えど友 サークルだより

◆江戸東京を巡る会：3月27日(火)「大名屋敷跡と名刹(めいさつ)を訪ねる、旧町名が残る街」と題して、市ヶ谷尾張徳川屋敷跡、亀岡八幡宮、浄瑠璃坂、納戸町、二十騎町、山伏町、市ヶ谷甲良町(甲良屋敷跡)、経王寺(火伏せ大黒)などをめぐり、新宿歴史博物館で解散した。参加者42人。

◆落語と講談を楽しむ会：2月13日(月)藤村一夫さんが月番で、国立演芸場の2月中席を鑑賞した。前半は林家正雀、金原亭馬生ほかの落語、後半は「芝浜革財布」と銘打った鹿芝居(しかしばい)(落語家による芝居)で、アドリブも含めて楽しいひとときを過ごした。参加者24人。3月12日(月)島田昭さんと森川昌子さんの月番で「古今亭志ん朝と三遊亭歌之介」と題して、江戸の風を感じさせる志ん朝の「火焔太鼓(かえんだいこ)」と鹿児島弁を取り入れた歌之介の爆笑落語という対照的な落語ＤＶＤを楽しんだ。参加者20人。

◆藩史研究会：2月10日(金)安倍良男さんが「陸奥南部藩(盛岡藩)」について研究発表を行った。詳細な現地調査を含め、700年にわたる南部藩(のちに盛岡藩と改称)の歴史をひもとき、深い感銘を与えた。参加者は20人。3月9日(金)国定美津子さんが「肥後熊本藩・高瀬藩・宇土藩」の研究発表を行った。膨大な資料をそれぞれ立派な冊子にまとめ、詳細な地図、系図を駆使した興味深い発表だった。参加者17人。

◆古文書で『八犬実記』を読む会：2月9日(木)、24日(金)、3月8日(木)、23日(金)に例会を開催。参加者は各6、9、8、7人。

◆神田川を歩き楽しむ会：2月23日(木)と26日(日)に第26回として、神田川が日本橋川と分岐する小石川橋から常盤橋まで日本橋川沿いに歩いた。途中、讃岐高松藩上屋敷跡、東京女子医科大学発祥の地、滝沢馬琴宅跡の井戸、一橋徳川家屋敷跡、神田橋公園、鎌倉河岸跡、御宿稲荷、旧竜閑橋跡などを参拝あるいは見学した。参加者は各33人、35人。3月18日(日)と22日(木)に第27回として、常盤橋から江戸橋までを日本橋川沿いに歩いた。といっても日本銀行本店の見学(22日のみ)をはじめ見るところが多く、日本橋川は時折りちらっと見る程度で、西河岸地蔵尊、竹久夢二の港屋ゆかりの地、ヤン・ヨーステン記念碑、歌川広重住居跡、江戸秤座跡、名水白木屋の井戸、三浦按針屋敷跡、芭蕉宗匠立机の句碑、十軒店跡、長崎屋跡、石町時の鐘・鐘撞堂跡、於竹大日如来井戸跡などを参拝あるいは見学した。参加者は各26人、58人。

◆『江戸名所図会』輪読会：2月20日(月)栗岡和子さんの担当で、池上本門寺と日蓮上人の一生の記述を読み、本門寺に葬られた有名人のお墓の話などで盛り上がった。参加者22人。3月19日(月)遠藤陽子さんの担当で、洗足池から光明寺池までを読み、名所図会の挿絵と名所江戸百景の比較などで活発な討論が行なわれた。参加者22人。

＊　＊　＊　＊

●各サークルとも引き続きメンバーを募集しています。奮ってご参加ください(ただし、輪読系の2サークルと「落語と講談を楽しむ会」については定員に欠員が出たときに先着順で参加いただくことになります)。参加ご希望の方は、はがきに①サークル名、②会員番号、③氏名をご記入の上、友の会事務局へお申込みください。また**新しいサークルの立ち上げ**希望の方は友の会事務局へお問い合わせください。

申込・問合せ先
130-0015 東京都墨田区横網1-4-1
江戸東京博物館友の会事務局
Tel.03-3626-9910

えど友 サークル紹介

◤落語と講談を楽しむ会◢

今号から「えど友サークル」を一つずつ訪ね、その様子を紹介していきます。手始めは、平成16年(2004)11月から活動している「落語と講談を楽しむ会」です。

この日3月12日で末広がりの第88回の会合を迎えたそうです。13時に江戸博地下1階会議室に20人が集まりました。今回は森川昌子さんと島田昭さんの担当で、この会では毎月の担当を月番と呼んでいます。三遊亭歌之介の「手水回し」「母のアンカ」と古今亭志ん朝の「火焔太鼓」の落語をＤＶＤで鑑賞しました。鹿児島出身を活かした方言落語の歌之介の資料には略歴とともに方言の説明も配られ、笑い声もでて楽しく鑑賞していました。今は亡き志ん朝の「火焔太鼓」はTBSテレビの「落語研究会」という番組で彼が35歳の時国立劇場で演じたものに思い出話と解説がはいったＤＶＤを鑑賞しました。志ん朝をよくご存じの方も35歳の志ん朝に感服していました。

ＤＶＤ鑑賞の間に4月の浅草・潮江院での「可楽まつり」への参加や5月の女流講談師宝井琴柑さんのガイド付きの浅草散策のお知らせがありました。他にも寄席や演芸場での鑑賞などいろいろな形で落語や講談を楽しんでいるようです。持ち回りで色んな人が月番を担当する方式で、うまく運営されているそうです。

さてＤＶＤが終わると、皆さんでの放談会です。歌之介の入門の経緯や家庭での志ん朝の話、さらには志ん朝の誕生日が3月10日ということから、東京大空襲や戦時中はどうだったかなど、話はつきませんが、16時になり江戸博をあとにしました。まだお話がつきない方々は次の場所に行かれたようです。

【取材】文：広報部会・佐藤美代子

お知らせ

『えど友』誌面が少し変わりました

会報『えど友』のマンネリ化を防ぐために広報部会では昨年8月からプロジェクトチームをたちあげ、誌面見直しを検討してきました。そこで『えど友』は皆さんにどのように読まれているのかを知ろうと、セミナーや見学会など友の会の催事に参加された方々へアンケートをお願いし、延べ384人の方々から回答をいただきました。

その結果、内容や構成など各項目についていずれも高い評価を受け、何も変える必要はないとも思える数字でした。しかし、自由コメント欄に書かれたいろいろなご意見、ご提案を踏まえて総合的に検討し、より読みやすく、楽しい誌面を作るために少しずつ見直しをしていくこととしました。

67号はその第一弾となります。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

●トップページはこれまでほぼ固定化されていた内容から間口を広げ、江戸・東京に関する興味を引くような事物をタイムリーにとりあげていきます。

●これまで読者の投稿専用欄としていた「えど友プラザ」は「えど友広小路」とタイトルを改め、会員の皆さんの活動の場である「サークルだより」や「友の会めも」などと読者の投稿を併せて、会員相互のコミュニケーションの場となるようにしていきたいと思います。皆さんの積極的な投稿を促すために毎回テーマを設けることも考えていきます。

●セミナー報告や見学会のレポート記事に関しては、“レポーターからひとこと”欄を設け、書き手の気持ちがいくらかでも伝えられるようにしました。

●皆さんが必要とされている催事案内など情報関連の記事はこれまで以上にわかりやすくお伝えしていきます。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

今回は大きな変更ではありませんが、今後も気がついた点があれば随時修正をしてよりよくしていきたいと思います。新しくなった『えど友』について皆さんのご意見、ご要望を積極的にお寄せいただき、みんなでつくり上げる友の会の会報となるよう、ご協力をお願いします。

友の会めも（開催日と人数）

平成24年2月～3月

◆役員会2月14日(火)14人。3月13日(火)14人。**◆事業部会**2月7日(火)21人。3月6日(火)20人。**◆広報部会**2月3日(金)10人。2月17日(金)11人。3月22日(木)7人。**◆総務部会**2月28日(火)20人。3月27日(火)17人。**◆3部会合同会議**2月14日(火)30人。**◆文政町方書上翻刻プロジェクト**2月2日(木)A9人、B9人。2月16日(木)A9人、B10人。3月1日(木)A8人、B9人。3月15日(木)A10人、B10人。**◆古文書講座 入門編**2月1日(水)A70人・P48人。3月7日(水)A66人・P52人。**初級編**2月15日(水)A55人・P45人。3月21日(水)A49人・P46人。**中級編**2月18日(土)A38人・P21人。3月17日(土)A31人・P29人。

原稿を募集します！

「会員からの投稿欄」への原稿を募集しています。今回は特集として**「上野と私」**というテーマで募集します。化粧直しする上野にちなんで、あなたと上野にまつわることを1,000字程度にまとめて事務局宛お送りください。字数が多い場合など調整することがあります。いずれも採用分については記念品を差し上げます。なお、原稿は未発表のものに限ります。また原稿はお返ししません。

第 114 回　江戸東京博物館友の会セミナー（平成 24 年 2 月 25 日）

「後藤新平をめぐる男たち 江戸博所蔵資料を中心に」

講師　松井かおるさん（江戸博学芸員）

―衛生局時代の同僚　永井―

安政４年(1857)、現在の岩手県奥州市に生まれた後藤新平は、激変する時代の下、苦学を重ね医学生となり、20歳で愛知県病院の三等医として人生を歩み始めました。以後、岐阜で遭難、負傷した板垣退助の手当てをしたり、明治10年(1877)ごろからはやりだしたコレラの撲滅に力を注いだりして、25歳で愛知病院長兼医学校長となり、27歳で内務省衛生局に入り、国内各地の衛生状態や下水状況をつぶさに調査します。このころの同僚が永井久一郎(永井荷風の父)です。事務方として内務省衛生局に入った永井は各地の衛生調査を皮切りに、明治17年(1884)には万国衛生博覧会出品の指揮を執り、ロンドン、デンマーク、ローマなど会議や視察で巡ります。この間にウィリアム・バルトンと懇意になり、衛生顧問として日本に招請、のちにバルトンは後藤の依頼で台湾の水道調査を手がけます。

途中、ドイツ留学後、帰国して内務省衛生局長になりましたが、相馬事件(元相馬藩のお家騒動)に巻き込まれて非職(休職)の身となりました。明治28年(1895)、日清戦争の帰還兵が持込む風土病やコレラを防ぐための陸軍検疫所をわずか２カ月で建設し、時の実力者・児玉源太郎の信頼を得ました。この縁で台湾総督府の衛生顧問を委嘱され、42歳で台湾総督府民政局長となりました。

―鉄道院、復興院の部下　大内―

後藤はこの後、貴族院議員になり、明治39年(1906)、50歳のときに南満洲鉄道株式会社(満鉄)初代総裁に就任します。満鉄ではわずか１年で鉄道の広軌化を実現し、港湾や上下水道の整備も行いました。明治41年(1908)、日本に戻って鉄道院初代総裁に就任した後藤は、国内の鉄道網はすべて広軌に改築すべき、と主張しますが、経費と時間が大幅にかかるため、それよりも狭軌で多くの鉄道を敷設すべきとする会派と対立し、10年近く攻防が続きました。遂に広軌改築案は廃案と閣議決定されかけたのですが、寸前で時の首相原敬がなぜか閣議決定を中止する不思議な文書を当館は所蔵しています。大正７年(1918)当時配下にいた大内亥之吉(広軌鉄道改築準備委員会書記など担当)の旧蔵文書です。この他、広軌改築を効率的に行うための実験を行った資料等もあり、興味深い資料です。この方は帝都復興院で総裁となった後藤の下で、その後は東京市に移って、震災復興のために働いています。

後藤はこの間、鉄道院総裁を兼ねた逓信大臣、内務大臣を経た後、大正８年(1919)には拓殖大学学長を経て、その翌年東京市長に就任しました。後藤は都市開発専門家などエキスパートを集めて市政改革のための調査をやり、道路整備や区画整備をはじめ、公園や上水道の整備など「新事業及其財政計画綱要」を提出、その事業経費が８億円もかかるため議会から荒唐無稽な大風呂敷と批判され、実現には至りませんでした。

―震災復興の意志受け継ぐ　太田―

大正12年(1923)２月、暴漢が後藤邸に乱入し、応対に出た長男が負傷する事件が起こり、２カ月後の４月に東京市長を辞職しました。関東大震災が起こったのは、その５カ月後の９月１日。翌２日に山本内閣が成立し、内務大臣に就任した後藤は、その日から帝都復興の方針づくりに着手、鉄道院時代や市長時代の優秀な部下を集め、９月29日に帝都復興院が設立されますと、新平は総裁を兼務しました。丹那トンネル工事で有名な太田圓三を復興院の土木局長に抜擢しました。太田は大いに腕を奮って、日本橋をはじめ、壊滅状態の東京市の区画整理、道路拡張等に尽力しました。現在の昭和通りや靖国通りはそのときに作られたものです。その他、隅田川の橋や聖橋など復興橋の建設にもたずさわっています。後藤はその年の12月に起こった虎ノ門事件(皇太子狙撃事件)で内閣が総辞職したために閣外に去りましたが、後藤の考えやコンセプトは後任の人に引き継がれ、近代的な都市・東京が整備されていきました。

後藤の復興案は反対論や予算不足で原案どおり実現しなかったことを重視する見方がありますが、私はむしろ、後藤の意志を受け継ぎ、今日の東京の基礎が築かれたことを評価すべきと考えます。後藤は東京市復興祭の行なわれる昭和５年(1930)を待たず、その前年に亡くなりました。享年73歳でした。

レポーターからひとこと

誌面の都合で書ききれないお話の中で一つだけここで書いておきます。

国有鉄道が広軌でなく狭軌に決まったのをしおに、鉄道院を去り満鉄に入った島安次郎はその後、満州で弾丸列車を走らせました。その長男秀雄は戦後、新幹線開発にかかわり、孫の島隆は台湾で新幹線に携わっているそうです。参加者80人。

【記録】文：広報部会・福島 信一
写真：同・五十島 正修

第115回 江戸東京博物館友の会セミナー
（平成24年3月24日）

「忘れそうな江戸東京ことば」

講師　林えり子さん（作家）

「根生い」と言う言葉があります。ご存じでしょうか？「生え抜きの」という意味です。私は自己紹介では、いつも「根生いの江戸っ子です」といっております。

さて、本日のテーマは、「忘れそうな江戸東京ことば」です。

川柳作家「川上三太郎」と東京人

「サラリーマン川柳」などの基礎を築いた川柳作家に、明治23年(1890)生まれの「川上三太郎」がいます。

三太郎のエッセイによると、昔の東京人のくらしは、ほんとうに静かなものでした。威勢がいいのは、魚河岸など市に立つ人ぐらいで、ふつうの人は話し方も穏やかで奇麗な言葉遣いでした。下町で育った三太郎は、子供を叱る時、よく「みっともない」という言葉を口にしましたが、この言葉は式亭三馬の『浮世風呂』にも登場するれっきとした「江戸ことば」です。「みっともない」は、元は「みともない」。不体裁だ、見苦しいなどの意味です。「みっともない」ことをするより「やせ我慢でも、我慢する」ことが江戸っ子や東京人には大事なことだったのですね。さらにこんなエピソードがあります。三太郎の父は朝顔を垣根に絡ませず「鉢植え」に仕立てました。近所に迷惑にならないようにするためです。

また、秋には虫籠をつるしましたが、「キリギリス」しか飼いませんでした。声音では「スズムシ」が一番ですが、甲高い鳴き声が近所迷惑になるからです。すごいでしょう？
昔の東京人はこうした配慮をして生きたのですね。

「岡鬼太郎」と気の毒な「ヨン様」

明治の劇評家の重鎮「岡鬼太郎」は生粋の江戸っ子でした。著書『鬼語冗語』の中に、「近年著しく流行りだしたる言葉に、『しなさい』とか『行きなさい』『見なさい』などがあるが、これらは商家の番頭が年季小僧に言う以外は使わない。東京語では『何々なさい』『いらっしゃい』『御覧なさい』と言う」とあります。本当にそのとおりですね。

私は、ペ・ヨンジュンの大ファンなのですが、CMで若い女性に対し犬や猫を呼ぶように「おいで」と話しかけるシーンがありまして、それを聞いた時は本当に驚きました。ヨン様に「おいで」と言わせたCM制作者の知性と品性を疑ってしまいます。日本には鬼太郎先生仰せのとおり「いらっしゃい」という奇麗な言葉があるのですから。

「ケチ」の一言と「あたじけない」

江戸っ子や東京人にとって、もっとも「みっともない」ことは「ケチ」と言われること。そう言われてまで生きるなどどうしてできようか、本当に誰もがそう思って生きていました。

これは決して金銭だけではなく、骨惜しみをすることや人に親切にしないなども「ケチ」に含まれます。

私の好きな「江戸ことば」に今ではほとんど死語になっている「あたじけない」があります。この意味も「欲深い」「ケチだ」「卑しい」です。「ケチ」といえば「みみっちい」も同義語です。細かいものをかき集める「耳かき」をも放さないほど「ケチ」からきているものと想像しています。

江戸ことば三択クイズ

これからは、三択クイズです。言葉の由来は何でしょうか？　会場の皆さんも一緒に考えてみてください。
(レポーター注：カッコ内は正解です)

①いかもの(「いかがと思われるもの」からこういいます)
②切らず(切らずに食せた「おから」を「切らず」と称しました)
③お先煙草(先方で出された煙草をちゃっかり頂くケチな人間をいいます)
④袖にする(両手を袖の中に隠して何もしない事をいいます。転じて「すげなくする」の意です)
⑤お仕着せ(主人から奉公人に与えられた着物「四季施」が語源です)
⑥あばずれ(「当て外れ」が変化したもの。常識外の行動をとる意味です)
⑦ばくれん(「莫連」(連なう莫れ)から来ています。世のつまはじき的女性をこういいました)
⑧やに下がる(通ぶった男はキセルの雁首を上に向けて吸います。すると煙草のやにが下がってきます。気取った男をあざける言い方です)

レポーターからひとこと

14代も続く「根生いの江戸っ子」、林先生の講演は、実に粋でユーモアにあふれるものでした。出された「三択問題」は全部で20問。誌面の関係で、そのうちの8問、しかも「正解」しか載せられませんでしたが、「不正解」の解答も思わずうなってしまうほどの名作でした。これからも一層「江戸東京ことば」に触れ、江戸っ子や東京人の心遣いを学んでいけたらと思います。参加者147人。

【記録】文・写真：広報部会　五十島正修

江戸東京博物館友の会特別観覧会
（平成24年2月24日）

特別展「ザ・タワー ～都市と塔のものがたり～」

2月24日(金)17時より、「ザ・タワー～都市と塔のものがたり～」の友の会特別観覧会が開催されました。

企画担当の岩城紀子学芸員による興味深い「見どころ解説」の後、思わぬサプライズがありました。展覧会のPRキャラバン隊「えどはくタワーズ」の特別パフォーマンスショーです。東京タワーくん、通天閣くんなど4つの塔のカブリモノをつけたダンサー達が、華麗なダンスを披露してくれました。

▲「えどはくタワーズ」のショー

観覧会はまずプロローグとして、東西文化を象徴する二つの塔、バベルの塔と仏塔から始まります。神学者の挿絵や仏塔の模型を通して、人と祈りの塔の関わりを考えます。

次に時代は飛んで江戸時代へ移ります。ランドマークの一番はもちろん、富士山です。江戸から東京へ浮世絵を通して、富士山、要所に建てられた火の見櫓（やぐら）、和洋折衷ながら文明開化の建築を代表する第一国立銀行、愛宕山にあった愛宕塔→凌雲閣（りょううんかく）と流れの変遷は続きます。

次の「近代都市の塔と万博」のハイライトはエッフェル塔です。パリからやってきたさまざまなデッサン画、写真、模型は興味深いものばかりです。なかでも、『エッフェル塔三十六景』は圧巻です。19世紀末のパリで活躍していた画家、アンリ・リヴィエールはジャポニズムの影響を受け、北斎へのオマージュとして、パリの新しいランドマークとなったエッフェル塔をモチーフに36枚のリトグラフを描きました。展示室では『冨嶽三十六景』との比較展示を楽しむことができます。

さらに展示は日本の近代へ移り、凌雲閣のストーリーを掘り下げます。

十二階という呼び名で親しまれたこの塔は日本初のエレベータが故障続きで悩まされました。その救世主が『凌雲閣百美人』です。美人で評判の芸妓100人の写真を塔内に飾る企画で、人々はそれを楽しみにどんどん階段を上がったそうです。

最後は東京タワーと大阪通天閣です。このあたりから鑑賞する側も感情移入が強くなるようで、あちこちから思い出話が聞こえました。通天閣が炎上した後、また新たな塔を欲する人のエネルギーはどこから来るのでしょうか。会場の最後には、大阪からご出張いただいた人気の神様「ビリケンさん」が入場者の幸運を祈ってくれます。

今年は、東京スカイツリーの話題で持ちきりでしょうが、建築技術は進化しても、人間の心の方は過去とほとんど変わっていないことを実感できる企画でもありました。参加者62人。

【取材】文・写真：広報部会・深尾恵美子

江戸博クリップ

「痛恨の一事」

専門研究員　近松鴻二

当館の開設準備から27年、この3月で戦力外となった私にとって痛恨の一事は、展示のキャプションや刊行物等の不正確な年代表記です。たとえば、赤穂浪士が吉良邸を襲撃した元禄15年12月14日夜(正確には15日未明)の当館の表記は「1702年(元禄15)12月14日夜」となっています。このようにすると決めた会議の席上、私は「元禄15年(1702)12月14日夜」とすべきと主張しました。結局は当時の歴史の教科書の表示に従うという理由で、現行の表示になりました。

その後、文章論的検証や旧暦と西暦(厳密にはグレゴリオ暦)との関係等を調べていくと、現行の表示も私の主張も誤りであることが判明しました。現行表示は文章論的にいうと、襲撃は1702年の12月14日に行われたことになります。この日は和暦に直すと元禄14年10月26日となってしまいます。私の主張では、襲撃は元禄15年12月14日になりますが、この日をグレゴリオ暦に変換すると1703年1月30日となり(　)内の表示1702と1年違ってしまうのです。

これは旧暦とグレゴリオ暦とのズレが原因となっています。私の調べでは、このズレはグレゴリオ暦の日付が先行する形で、最小で20日、最大で52日、平均で36日のズレがあります。つまり元禄15年＝1702年ではないのです。

では、どのように表示すればよいのでしょうか。答えは簡単で、「元禄15年12月14日(1703.1.30)夜」とすればよいのです。さらに、元禄15年12月は「1703.1.17～2.15」、元禄15年は「1702.1.28～1703.2.15」のように表記すれば正確な表示になります。

当館は開館20年を迎え、展示のリニューアルが予定されています。これを機会に年代表記の全面的な更新を切に祈るものです。

◆このコラムは江戸東京博物館のいろいろな職務の方々に執筆をお願いしています。

江戸東京博物館友の会　見学会　（平成24年3月25日）

「広重『名所江戸百景』周辺探訪 ―その6（深川木場・門前仲町周辺）―」

6回目を迎えた『名所江戸百景』は深川木場・門前仲町周辺を歩きました。出発時小雨がぱらつきましたが、その後は程よい気温で快適な見学会となりました。

西大島駅前を出発

18班が順次、都営地下鉄新宿線「西大島」駅前の「五百羅漢さざゐ堂」絵の羅漢寺跡からスタート、猿江恩賜公園を通り一路「小奈木川五本まつ」絵の小名木川橋へ向かいます。ここには現在も松がありますが、昭和63年(1988)に植えられたもので広重の描いた松はすべてありません。橋の欄干には広重の絵のレリーフがあります。

小名木川橋から四ツ目通りを南へ、仙台堀川にかかる豊住橋までが一ツ橋十万坪跡です。四ツ目通りをさらに南へ、江東区役所前を通り東京メトロ東西線「東陽町」駅前の永代通りの一つ先の道を右折します。

▲羅漢寺跡を見る

深川・洲崎・木場

しばらく歩くと雪景色の上空の大鷲(わし)が印象的な「深川洲崎十万坪」絵の場所へ着きます。広重の絵には筑波山まで描かれていますが、現在ではマンションの間からわずかに前方の景色が見えるだけです。

さらに進むと「洲崎弁天」(明治維新後は「洲崎神社」)です。洲崎神社をあとにして、大横川を新田橋で横切り北上します。永代通りの交差点から見た木場公園方面がかつての材木置場を意味する「木場」です。今は、江東区民祭りで伝統芸「木場の角乗」を見ることができますが、周辺は高層住宅の多い町となっており、材木商は南方の新木場に移転しています。

ここからは西方向へ平久川を越えてさらに先を左折すると「深川三十三間堂」絵の跡地へ到着です。現在は碑とレリーフがありますが、街並みだけを見ると三十三間堂があったとは分かりません。このあたりで約2時間30分。少し疲れてきました。

永代寺・深川不動・富岡八幡宮

西へ進んで都内最古の鉄橋で国の重要文化財、八幡橋(旧弾正橋)を渡り、富岡八幡宮へと進みます。今回はゆっくり参拝はできませんでしたが、この日は骨とう市が開かれていてにぎやかな場所であることが分かります。

次にお隣の深川不動へ移動します。ここは成田不動の出開帳をしたことが起こりで、明治14年(1881)に深川不動堂が完成しました。現在の本堂は昭和26年(1951)に再建されたものです。

「深川八まん山ひらき」絵の江戸時代の永代寺は富岡八幡宮と一体で広大な土地を持ち、宮を管理する別当寺でした。山ひらきとは永代寺の庭

▲八幡橋を渡る

を一般開放したことを指し、当時は広大でよく整備された見事な庭園であったとのことです。現在の永代寺は深川不動堂への参道の一角にこぢんまりと立っています。

今回の見学会はここで解散となりました。参加者は184人でした。

レポーターからひとこと

約3時間歩いてみて、特に終盤の富岡八幡宮、深川不動の周辺は門前町として江戸情緒を濃く残す場所で、貴重な地域であると感じました。

【記録】文・写真：広報部会・天野哲夫

第4回「えど友研究発表会」の発表者を募集します

ご好評をいただいております「えど友研究発表会」を今年度も行います。

発表会の主旨は、長年の研究・調査の結果を発表したいという会員のニーズに応えるとともに、質疑応答・討議を通じ会員相互の交流を深め、友の会の一層の活性化に資するというものです。発表テーマは「江戸東京の歴史と文化に関するもの」とし、特定の政治・宗教・信条・事業等の宣伝・広報に類するものは不可とします。また、発表者は友の会会員に限るものとし、講演料等のお支払いはいたしません。今回も3テーマを予定し、1テーマにつき質疑応答を含め1時間程度の予定です。

発表会は**8月7日(火)の12時30分**から江戸博1階会議室で開催の予定です。日頃の成果発表に**奮ってご応募**くださるよう発表者を募集します。

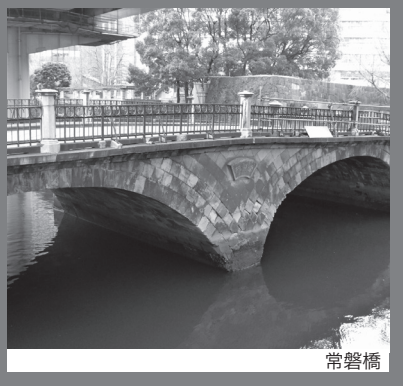
発表を希望する方は、はがきに「発表会応募」と明記し、氏名、会員番号、電話番号、テーマを書いて事務局宛お送りください。なお、昨年応募されて発表に至らなかった方で再度応募される場合も改めてお申し出ください。

折り返し「**えど友研究発表会申込書**」をお送りしますので、所要事項をご記入の上事務局へご返送ください。同申込書の提出をもって正式の応募といたします。**応募締切りは5月末**です。

なお、応募多数の場合は調整させていただきますが、その結果については6月上旬に応募者にご連絡いたします。

江戸名所図会を歩く…①

［和田倉門から石町時の鐘］



常磐橋

『江戸名所図会』は神田雉子町の名主を務める斎藤家の親子三代(長秋、懸麻呂、月岑)によって編纂され、天保5年(1834)と7年(1836)の二度にわたって刊行されました。武蔵国、江戸の地名の由来から始まり、江戸の大城の成り立ちへと続いていきますが、歩きはじめは江戸城和田倉門からとしますか。

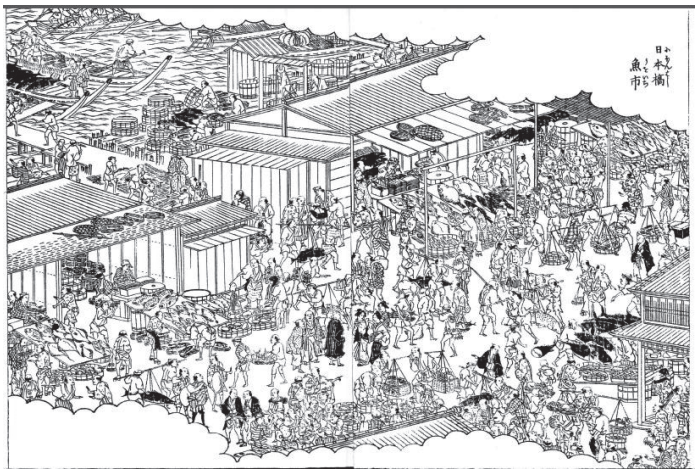
八代曾河岸

和田倉門外の堀端は天正(1573-1592)以前は漁業者の住み家で、のち日比谷町という肴店の多い町屋となりました。和田倉御門から日比谷御門の間は八代曾河岸と呼ばれ、その名の由来は家康の外交顧問ともなったオランダ人、ヤン・ヨーステンがこの辺りに屋敷を賜ったためといわれています。明治になってここは麹町区八重洲1丁目、2丁目となりますが、昭和4年(1929)に丸の内2丁目と改称し、八重洲という地名は消えます。今の中央区側に八重洲という地名が復活したのは昭和29年(1954)でした。ヤン・ヨーステンの碑が屋敷を賜った今の丸の内ではなく、八重洲通りの中央分離帯に設置されています。

和田倉御門の東には龍の口があり、御堀の余水を落としていました。龍の口から外濠につながる道三堀には道三橋、銭瓶橋とふたつの橋が架かっていました。堀は明治42年(1909)に埋めたてられ、橋跡の説明板が立っています。道三橋は永代通り三井生命ビルと新大手町ビルの間を入ったところ。銭瓶橋は常盤橋公園内、渋沢栄一像の通りを挟んだ向かい側の郵便局前にひっそりとありました。

常磐橋から日本橋

図会では常盤橋と書かれていますが、現在の橋は明治10年(1877)に架け直された和洋折衷の石橋で橋の名は皿が石の常磐橋になりました。ここには常盤橋御門の枡形櫓門跡が保存されているのですが、昨年の震災でゆがみやひび割れが生じたため、工事中の柵で囲まれ通行不能になっていました。やむなく昭和元年(1926)架橋の常盤橋を渡り、右に折れると一石橋です。日本橋川から外濠の入り口にかかるこの橋は「まよひ子のしるべ」が有名ですが、名所図会の頃この石碑は建っていませんでした。石碑は盛り場として多くの人でにぎわっていた安政4年(1857)に建てられたものです。橋名の由来は橋の南北、金座の後藤庄三郎、呉服所の後藤縫殿助にちなみ、後藤＝五斗＋五斗で一石と名付けられたとか。江戸っ子の駄洒落ですね。



▲長谷川雪旦　日本橋　魚市

一石橋を渡って「旭日東海を出るを親しく見る故にしか号るといへり」といわれた日本橋を目指します。日本橋川にかかる長さ二十八間(約51m)の橋の南詰めには高札場がありました。橋の北側の船町、小田原町、按針町など一帯(今の日本橋室町1丁目、本町1丁目)が魚河岸で、遠近の浦々より海陸問わず鮮魚が運ばれ、日夜市が立ってにぎわっていました。

鎌倉を　生きて出でけん　はつがつお

芭蕉

活気のある魚市場の様子が目に浮かぶようです。乙姫広場には日本橋魚市場発祥の地という碑が立っています。

十軒店から石町時の鐘

日本橋からまっすぐの通りは室町から十軒店へ続きます。本町と本石町の間の大通りを挟んだ両側、今の室町3丁目辺りに人形の店が軒を連ねていました。ひな祭り、端午の節句などに人形市がたち、年の暮れには破魔矢や羽子板などを商って繁盛していました。十軒店の痕跡を探してみましたが、りそな銀行の壁に由来を書いた看板を見つけただけに終わりました。

さらにまっすぐ進み、江戸通りを渡った次の東側に伸びる細い小路は時の鐘通りと呼ばれています。この辺りに時の鐘の鐘楼がありました。近くには与謝蕪村も居を構えていたようです。この通りをさらに東に行くと、この鐘が移転された小伝馬町の十思公園が左手にみえてきます。(途中で昭和通りを横断します)

「石町時の鐘」は江戸で最古のもので、図会では初め御城内にあったと記されていますが、寛永3年(1626)に本石町3丁目に鐘楼が建てられたという鐘撞き役の記録があります。この鐘は火災などで破損し、現在の鐘は宝永8年(1711)に改鋳されたものです。十思公園は伝馬町牢屋跡の一角につくられ、安政の大獄で処刑された吉田松陰関連の碑も立っています。

所要時間：和田倉門(10分)道三橋跡(8分)銭瓶橋跡、常盤橋公園、常盤橋(3分)一石橋(10分)日本橋(5分)十軒店跡(3分)時の鐘鐘撞堂跡(10分)十思公園

【取材】歩いた人(文・写真)：
広報部会・中村貞子

催事案内

古文書講座

5月から第1期を開講

新年度第1期は5月から開講します。申込の受付は終了していますが、以下日程をお知らせします。

◆入門編

- 講師：田中潤さん(学習院大学文学部史学科助教／近世の門跡寺院を中核とした朝廷史・仏教史・文化史を研究)
- 開催日：5/2(水)、6/6(水)、7/4(水)

◆初級編

- 講師：吉成香澄さん(学習院大学大学院史学専攻／最近の研究テーマ：将軍姫君の儀礼上の贈答関係の範囲など)
- 開催日：5/16(水)、6/20(水)、7/18(水)

◆中級編

- 講師：長坂良宏さん(学習院大学大学院史学専攻／最近の研究テーマ：朝幕関係史、特に近世後期の朝廷と幕府関係など)
- 開催日：5/19(土)、6/16(土)、7/21(土)

- 時間：午前の講座は10時30分～12時30分
  午後の講座は14時00分～16時00分
- 会場：各講座とも江戸博1階会議室または学習室1、2
- 参加費：各講座とも全3回1,500円(初回一括払い)

【企画担当責任者】宮　俊(事業部会)

公開事業部会

◆事業部会では総会で承認された事業計画に沿って、毎月の定例部会で議論をかさね各事業を具体化しています。この実情を会員の皆さんにご理解いただき、ご協力をいただくため、皆さんにオープン参加していただく機会を設けました。下記のとおり定例の事業部会を公開で行いますので、ご関心のある方はこの機会に部会を見学され、ご意見、ご感想をお聞かせください。

- 開催日時：6月5日(火)16時～18時
- 申込締切：5月31日(木)必着
- 会場：江戸東京博物館・地下会議室
- 参加費：無料

【責任者】下永博道(事業部会)

「友の会10年のあゆみ」を刊行

友の会では平成22年度に10周年記念事業を行いましたが、23年度の定期総会では、基本方針の一つに「前年の10周年記念事業の成果を含め、友の会10年の記録をまとめ、今後10年の礎とする」を掲げました。それにしたがって、この度「友の会10年のあゆみ」を刊行することになりました。巻頭には江戸博竹内誠館長にもお言葉を寄せていただき、A4版32ページの冊子となりました。

この「友の会10年のあゆみ」を全会員にお送りいたしますので、友の会への理解を深める参考としてご活用いただければ幸いです。

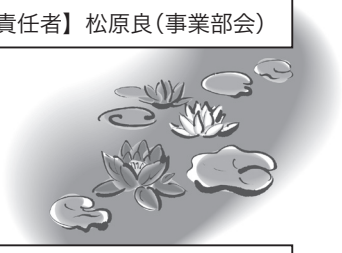
友の会特別観覧会

●江戸東京博物館 開館20周年記念特別展「日本橋～描かれたランドマークの400年～」

◆400年以上の歴史を持つ日本橋の姿を、江戸から明治、大正、昭和に至るまでの浮世絵や版本、絵巻、そして近代版画や写真など、江戸博のコレクション約130件で紹介する特別展です。いつの時代にも愛され、そしていま再び注目を集める日本橋の、江戸から昭和に至るドラマチックな変遷を、多彩な作品で楽しむことができます。担当の我妻直美学芸員による「見どころ解説」をお願いしていますので、ご期待ください。

- 開催日：6月1日(金)17時～19時
- 申込締切：5月21日(月)必着
- 会場：江戸東京博物館・1階ホール／企画展示室
- 定員：200名　同伴者可(はがきに氏名連記)
- 参加費：会員500円・同伴者700円(当日払い)

【企画担当責任者】松原良(事業部会)



友の会セミナー

第118回［忘れられた幕末の偉人―「小栗上野介」］

講師　福田嘉文さん(歴史研究家)

◆小栗上野介は江戸末期の幕臣で日米通商条約批准書交換のため渡米しました。外国奉行・町奉行・軍艦奉行などを歴任し、勘定奉行として横須賀製鉄所の建設その他多くの業績を残しました。しかし、新政府軍から朝敵として尋問もなく謀殺され、名前さえ歴史から抹殺された悲劇の人物になってしまいました。この人物にまつわるさまざまなエピソードを交えその生涯、業績と人物像についてお話しいただきます。

○講師略歴：ふくだ・よしぶみ

1937年茨城県生まれ。横浜市泉区に在住。東大法学部卒業。金融機関に勤務。現在はＮＰＯ法人「シニア大楽」に所属し、横浜市泉区「生涯学習アドバイザー」でもあり、歴史に関する大学公開講座、市民生涯学習講座の講師として活躍中。主に江戸時代の人物、江戸に関する事柄、将軍家関連事項などさまざまな分野について講演している。平成22年(2010)新人物往来社から『幕末維新人物夜話』を自費出版した。

- 開催日時：6月23日(土)14時～15時30分
- 申込締切：6月14日(木)必着
- 会場：江戸東京博物館・1階ホール
- 定員：200名　同伴者可(はがきに氏名連記)
- 参加費：会員500円・同伴者600円(当日払い)

【企画担当責任者】清水昌紘(事業部会)

見学会

『江戸名所図会』を中心に江戸の面影を訪ね歩く その１湯島・本郷」

◆江戸時代後期に刊行された『江戸名所図会』は神田の町名主斎藤家三代にわたって書き継がれた地誌です。長谷川雪旦の素晴らしい挿絵は鳥瞰図によって描かれ、構図は立体的で躍動感にあふれています。今回はこの『江戸名所図会』に描かれた湯島・本郷地域に江戸の名残りを訪ねる企画です。天下祭りの「神田明神」、富くじの「湯島天満宮」、家光の乳母春日局と忠長の乳母於清ゆかりの「麟祥院」と「昌清寺」、町奉行も悩んで粋なはからいをした本郷「かねやす」、石川啄木ゆかりの「喜之床跡」など、途中に「旗本と百万石の争い」の話題、随所に連なる坂道の名の由来などを織りまぜて楽しく巡ります。所要時間は約4時間、解散は東京都水道歴史館です。

【今回取りあげる作品】『湯島聖堂』『神田明神社』『妻戀明神社』『霊雲寺』『湯島天満宮』『麟祥院』『お茶の水』

- 開催日：6月10日(日)11時30分受付開始、最終出発12時15分。集まり次第、時間前でも順次出発します。
- 集合場所：お茶の水「サンクレール」前(JR中央・総武線「御茶ノ水」駅聖橋口改札の前方、東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅C-12地上出口)
- 申込締切：5月25日(金)必着
- 定　員：150名、同伴可(はがきに氏名、住所、電話番号連記)
- 参加費：会員・同伴者とも500円(当日払い)

【企画担当責任者】小林弘明、小西幸男(事業部会)

お申込方法

＊「えどはくカルチャー」など江戸博への申込と違い、普通はがきで宛先も「友の会事務局」と明記ください。お間違いなく！

◆**普通はがき**に、①催事名(略名可)・開催日、②会員番号、③氏名(同伴者連記)を明記して下記の「友の会事務局」へ。
「往復はがき」の必要はありません。なお、見学会に限り傷害保険の関係で同伴者の氏名、住所、電話番号も書いてください。
◆締切：各催事の案内をご覧ください。
◆申込は、各催事ごとに会員１人１通。
◆友の会へのご意見・ご要望があればご記入ください。
◆申込先：〒130-0015　東京都墨田区横網1-4-1
江戸東京博物館友の会事務局
＊お申込いただきますと、「受講票」をお送りします。当日ご持参のうえ、受付でご登録ください。なお「受講票」は逐次お送りするのではなく、申込締切数日後一斉にお送りしますので、それまでお待ちください。
＊いずれも**申込多数の場合は抽選となることがあります**。
＊「受講票」未着のお問合せや参加予定変更の連絡などは事務局員出勤の**火曜日か金曜日(10時～12時、13時～17時)**にお願いいたします。
＊「受講票」がないと受講できません。必ず事前に申込をしてからご参加ください。

会員優待のお知らせ

会期残りわずか、お見逃しなく！

●特別展

「ザ・タワー～都市と塔のものがたり～」

会　期　2月21日(火)～5月6日(日)
休館日：月曜日、ただし4月30日は開館
会　員：一般650円、65歳以上320円、大・専門生520円
同伴者：一般1,040円、65歳以上520円、大・専門生830円
＊高校生、中学生、小学生は65歳以上と同じ(前号の予告「中学生以下は無料」は誤りでした)。
※関連企画として特集展示「太陽の塔 黄金の顔」開催中
会　期　2月21日(火)～5月20日(日)
休館日：月曜日、ただし4月30日、5月7、14日は開館
会　場　常設展示室5階　朝野新聞社前および東京ゾーン「よみがえる東京」コーナー

次回予告

●特別展

「日本橋～描かれたランドマークの400年～」

会　期　5月26日(土)～7月16日(月・祝)
休館日：月曜日、ただし7月16日は開館
会　員：一般500円、65歳以上250円、大・専門生400円
同伴者：一般800円、65歳以上400円、大・専門生640円
＊高校生、中学生、小学生は65歳以上と同じ。
●(注)両展とも割引を受けられる同伴者は1名のみです。

企画展のご案内

好評開催中！

●企画展 「芝増上寺～秀忠とお江の寺」

会　期　3月27日(火)～5月27日(日)
休館日：月曜日、ただし4月30日、5月7、14日は開館
会　場　常設展示室5階　第2企画展示室

次回予告

●企画展 「発掘された日本列島2012」

会　期　6月12日(火)～7月29日(日)
休館日：月曜日、ただし7月16日は開館、7月17日は休館
会　場　常設展示室5階　第2企画展示室

会報＜えど友＞第67号
平成24年5月1日発行(奇数月1日発行)
編集・制作：江戸東京博物館友の会広報部会

編集長兼発行人：松原良(会長)　副編集長：菅沼和男
編集人：佐藤幸彦、深尾恵美子、福島信一、内匠屋京子、中村貞子、佐藤美代子、国定美津子、天野哲夫、前田太門、五十島正修
発行：江戸東京博物館友の会
〒130-0015　東京都墨田区横網1-4-1　電話03-3626-9910